

授業科目名・形態	臨床薬理学 講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	早狩 誠	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

薬物療法に使用される薬剤の作用機序および有害事象等を講義し、患者への安全で適正な薬物療法を遂行できる医療従事者の育成。

【到達目標】

各種薬剤の作用機序および有害事象および対処法を説明できる。

【授業計画・内容】

- 1 医薬品の安全性・有効性を評価する体制
- 2 薬物の代謝・吸収・分布・排泄・遺伝子多型・薬効の個人差
- 3 解熱・鎮痛・抗炎症作用薬物作用機序および有害事象
- 4 呼吸器系治療薬の作用機序および有害事象
- 5 鎮静・睡眠治療薬の作用機序および有害事象
- 6 精神疾患への薬物療法の作用機序および有害事象
- 7 循環器系治療薬：高血圧症および脂質異常症の病因および治療薬の作用機序
- 8 血液系作用薬・動脈硬化予防薬：貧血・アレルギー性疾患の治療薬の作用機序および有害事象
- 9 消化器系作用薬：潰瘍の治療薬の作用機序
- 10 腎機能改善薬：各薬剤の作用機序および有害事象
- 11 代謝性疾患：糖尿病薬：病因および治療薬の作用機序および副作用
- 12 代謝性疾患：高脂血症治療薬：病因および治療薬の作用機序および重篤な副作用
- 13 交感神経系作用薬：各薬剤の作用機序および副作用・麻薬の種類および依存症
- 14 抗生物質の作用機序：静菌作用および殺菌作用の抗生物質および副作用
- 15 抗がん剤の種類：各薬剤の作用機序・副作用および対処法

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行い、教科書に沿ったスライドを用い丁寧に解説し、理解度を高める。

【授業準備】

予めシラバスを確認し、当日の講義内容について教科書に記載されている部分を一読し、予備知識を得ておくことが重要である。なお、理解できなかった点は、適宜教員に質問し、早めの理解を心がけること。

【主な関連する科目】

生理学および生物化学

【教科書等】

別巻「臨床薬理学」 編集者：井上智子・窪田哲郎、医学書院出版

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

全講義終了後、定期試験（80％）を行い、講義中の小試験（20％）との総合点が60点以上を合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

大学病院薬剤部での経験を活かし、病院内で生じた薬物に関する多くのインシデント事例を踏まえ、各種薬剤に関する有害事象やその対処法を伝授し、質の高い医療従事者の育成を目指す。

【学生へのメッセージ】

講義内容は科学用語が多く理解しにくい可能性があるが、常に自分が医療の現場に身を置いている状況を想定して授業に臨む事によって、理解度が上がるはずである。得た知識を貴重な情報源として将来の業務に役立ててほしい。